

法華寺だより



花まつり法要

お釈迦様は、今からおよそ二千五百年前の四月八日に生誕されたと伝えられています。

今のインド北部の一部を支配していたシヤカ族の第一王子としてお生まれになり人々から祝福されたそうです。

誕生間もなく七歩歩まれ「天上天下唯我独尊、三界 皆苦我当度之」（この世は苦しみに満ちている。私はこの人々を救うとおっしゃり天と地を指さされ

たこのことです。このお釈迦様の智慧と慈悲の教えを信じ、命の大切さを確かめ合うのも釈尊降誕会（灌仏会とか花祭り）ですね。



□ 不思議 □

「ふしぎ」 思いも考えも及ばないこと、人間の判断を超えているものなどを「不思議」と言う。

くらしの中の 仏教語

サンスクリット語のアチントヤの訳で、正しくは不可思議と訳す。仏の悟りなどを形容するのに用いる。開経偈には「至極の大乗、思議すべからず」とある。また、

不可思議は数え切れないくらい大きな数の単位としても使われる。「〇〇の七不思議」等と言うこともあるが、これも仏典中の「不可思議七種」から来たものと考えられる。

科学的に説明されるようになったものも有るが、そうでないものも多々ある。

【仏教語散歩】

(さだまる新書)参照

日蓮聖人降誕八百年慶讃 北海道東部管区大会

☆主催 東部宗務所 ☆共催 東部檀信徒協議会

◎ 六月二十四日、

午後一時半～十六時 釧路市生涯学習センター 大ホール

★第一部 降誕八百年慶讃法要

★第二部 杉良太郎氏講演会

「福祉・思いのままに」

寺子屋ブツダ

「みんなで支えよう 子供達の未来を」

法要や葬儀は、お寺にとつてとても大事な事柄です。でも、それ以外のこともお釈迦様の時代から果たしてきました。それは、広い意味での教育の場でした。その内容や取り組み方等は様々でした。

現在の法華寺にとって出来ることは何か？ 身の丈に合ったことがあるはず。これまでの人生経験から、伝えることがあるのではないか。そんな思いで二十人ほどのボランティアが、三十一日天晴閣に集まり語り合いました。

ご案内

◆参加料 二千元 貸し切りバスにて 当日の集合時刻等は後日連絡 早めの申し込みを



四月

八日 釈尊降誕会・花祭り
十三日 行学会
二十一日

五月

八日
十三日 行学会、お花見
二十六日 帯広仏蓮花祭り

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩
みや心配事の絶えないもの
……ご来所やお電話を……
TEL 二三三四〇三三

今月の聖語

てんは
天晴れぬれば

ちあき
地明らかなり

【天晴地明】

空が晴れば、地面が明るくなることは道理です。人の心が晴れば社会は明るくなり、人の心が曇れば社会も暗くなります。私たちは、自分のためにも社会のためにも晴れやかな心を持って過ごしたいものです。合掌です。

「観心本尊抄」より

日蓮聖人御遺文



覚書

三月

五日 婦人会役員会

十三日 婦人会総会

藤川さん引き続き会長

二十一日 春の彼岸法要

二十七日 帯刑教誨

三十一日 寺子屋ブツダ打合せ



一 休み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）
●第五章 日蓮宗の勤行

1 このような用意を (一) 仏壇を安置する

・お仏壇は誰の家ですか？

「お釈迦様の家」であり、靈山浄土を現しているのです。死んだ人の家ではありません。ご先祖様や家族などが亡くなったとき、靈山浄土で共に過ごせるようにと、お仏壇の中に共に祀りさせていただくのです。お仏壇に手を合わせお経を読むのは、一日の無事を感謝し、お釈迦様の説かれた教えを有りがたく頂戴し

「奉仕」感謝

☆布薩会と婦人会 様 法会の諸準備等々、
☆様、 ☆様



法華和讃

(五十六)

なにゆえくだけほね なごり
何故に碎し骨の名残ぞと

おも そで たま ち
思えば袖に玉ぞ散りける

なむみようほうれんげきよう
南無妙法蓮華経

ミニ私見

江戸時代初期、京都の元政上人が母と共に父の遺骨を奉じて身延を詣でた時の道中記「身延道の記」にあるそうです。
日蓮聖人の遺骨を前にして、感激の涙(玉)が袖にこぼれたさまを詠んだものです。

ていまずと報告し、ご先祖の成仏をお願いするからなのです。
(2) 本尊を奉安する
本尊とは、この全宇宙で最も尊敬に値する大切なものという意味です。
日蓮聖人は「蔵の宝より身の宝大事なり、身の宝より心の宝第一なり」と心の大切さを説きます。しかし、人の心は変わり易いもの。でも、不変の心もありそれを「妙法」と名付けられ、仏像で表現すれば一塔兩尊となり、文字に表せば曼荼羅となり、人に表せば永遠不滅のお釈迦様となるのです。

編集後記

◆畑の雪解けも進み、農作業もいよいよ本番です。庭の草木も次々と花開き、孫の成長も楽しみです。◆自分の老化(ボケ?)は少し忘れてしましましょう。◆天清閣の工事も終わり、すっかり変わりましたよ。◆特に、法事が便利になりました。◆更に寺子屋ブツダとして色々使われるようですよ。◆

山崎記

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮検定」
- ※「日蓮宗信行読本」
- ※「日蓮と日蓮宗」
- ※「仏教語散歩」等々